

砂川の乳銀杏 (すながわのちちいちょう)

鶴岡市砂川 下砂川

(案内略図)



鶴岡市朝日庁舎から大鳥川に沿って約3.5km南下し、下砂川集落に入っすぐの山側に砂川の乳銀杏が立っている。

樹高は約27m、幹周り約8.7m、樹齢五百年以上といわれ、根に近い幹から垂れ下がった木根があることから乳銀杏と言われており、昭和51年3月31日に市指定天然記念物に指定されている。

季節に関連して、このイチョウの葉が全部落ちると根雪になるという言い伝えがあり、地域住民の生活と深いかかわりを持ってきた。

(山形県森林協会)



【森林やまがた130号(2010年11月)記載】

乳銀杏
この大銀杏は、高さ約27メートル、幹周り約8.7メートル、樹齢500年以上といわれる県下最大の銀杏の木です。根に近い幹からたれ下った木根があることから乳銀杏といわれています。昔、八幡太郎圓光が前九年の役の時、安部頼房を逃すこの地に来て陣を張り、銀杏の葉を糧え八幡様を祀ったといふ、それが成長したものがこの乳銀杏であるといふ伝説がある。秋の落葉から根雪などの目安になっています。
昭和51年3月31日、村指定天然記念物となった。
朝日村教育委員会